

カブ隊は楽しいよ

演者 カブ隊かしまし娘

あ 吉兼

菜 大田

晏 松田

あ 「はい〜。カブ隊のやかまし娘、あす香で〜す」

菜 「菜々美で〜す」

晏 「晏奈で〜す。よろしくお願いします〜ね」

あ 「何やね、そのあいさつは」

晏 「何かおかしいですか。」

あ 「おかしいわ」

菜 「おかしいわ」

晏 「おかしいわ〜あぁあぁ〜あぁね」

あ 「自分だけ目立ったらいかんがな。まあとにかくですね。カブ隊は楽しいですよ」

菜 「楽しいですよ」

晏 「楽しいですよ〜おぉおぉ〜おぉね」

あ 「ほんとにしつこいわね」

菜 「ほんとにしつこいわ〜あぁあぁ〜あぁね」

晏 「それ、うちが言うんやろ」

菜 「なかなか気持ちいいよ。(大きな声で) あ〜あぁあぁ〜あぁ」

晏 「それは、類人猿ターザンですよ」

菜 「そうとも言うかな。あし香ちゃんもやってみたら、」

あ 「私はあしかじゃないです。あしかは動物です。あしかやったら、
(菜々美の前に出て、横をむいてやる。両手を下でうち、首を上には伸ばしてまりを
鼻に乗せる真似をする)

こんなんするんか？」

菜 「(拍手しながら)

うまい、うまい」

晏 「上手やな。ボールを鼻に乗せましょか

(ボールを両手で乗せる真似をする)」

(ここでやめる)

あ 「何をさせるねん。」

菜 「はい、ごほうびのさかなですよ。お食べなさい」

あ 「ありがとさ〜ん。あほ、食べませんよ。私は、あし香でなくて、あす香です」
(もとのいちにもどる)

菜 「ごめん、あす美ちゃん、何が楽しいの」

あ 「あのねえ、菜々美ちゃん、今、あす美いうたやろ。」

菜 「はい、あす美ちゃん」

あ 「また言うとする。あす香と菜々美をいっしょにしたらいかんがな」

菜 「私の菜々美の美の字を上げるわ。」

あ 「いらんわ。あんたも菜々美を菜々香にするか」

菜 「あっすお香、なんてね」

あ 「あっすおかで、あす香というたんか」

晏 「うまい、うまい、
せつかくですから、二人ともあし美と菜々香ちゃんにしましょう。
でも、これ、言いにくいな」

菜 「無理に言わんでもいいでしょう」

晏 「あす香とあしかとあし美と菜々美と菜々香ちゃん。
あす香とあしかとあし美と菜々美と菜々香ちゃん。
早口ことばになっとる」

菜 「あす香とあしかとあし美とあんなとあん香ちゃん。
あす香とあしかとあし美とあんなとあん香ちゃん。
おもしろいね」

晏 「ちょっと変えましたね。あん香ってなんですか」

あ 「晏奈ちゃんも菜々美ちゃんも、勝手に変えないでください。
もう何の話しやったか忘れたわ」

菜 「何が楽しいの？って聞いたのよ。
あす香とあしかとあし美とあんなとあん香ちゃん。
これも楽しいよ」

あ 「やめてください。私はね、組長が整列させるときが楽しいわ」

菜 「なんで？」

あ 「ちょっとやってみましょう。私が組長としたら、こんなんするのよね。
(斜めを向いて、休め、きおつけの合図)」

晏 「休めときおつけの合図だね」

あ 「そう、集合するときに前で組長がやるでしょう。あれが楽しいの」

菜 「どこが？」

あ 「あの合図（あいず）で、みんなが一斉（いっせい）に動くでしょ。2組にまけない

ようにがんばって早くやるのよ。

1組が2組よりも早く隊長に報告できると気持ちいいわ」

晏 「そう、1組が2組よりも早くほうこくできると気持ちいいわ」

菜 「なんで、1組が先なのよ。2組の方が早いわよ」

あ 「でも、2組のしかはやんちゃなスカウトが多いわ」

晏 「そう、3人もいるでしょう。2人がやんちゃなのよね。いつもけんかしてるわ」

菜 「ほんと、私はいつもこまっているのよね。だから、2組はまけるの。くやしいわ」

晏 「お気の毒です」

あ 「それでね、私はほんとうは前に出てやりたいの。でも、まだうさぎスカウトだからできないのよ」

菜 「くまになるには1年以上あります」

あ 「ああ〜あ。早く〜、・・番長になりたいわ」

晏 「番長じゃあないでしょう」

菜 「女番長って、こわいわ〜」

あ 「ごめん、ごめん。組長です」

晏 「じゃあ、ちょっとだけ、組長をさせてあげましょか。ねえ、菜々美ちゃん」

あ 「うれしいわ。ありがとう。じゃあ、こっち向いて並んでください」

菜晏 「はい、はい」(菜々美が前に来る)

あ 「いくわよ。(休め、きおつけを2回する)」

菜晏 「はい、はい」

あ 「気持ちいいわ。もういちど御願い(やるふりをする)」

菜晏 「(休め、きおつけをする) はい、はい」

あ 「まだ、やっていませんよ」

菜晏 「えー、ずるいよ」

あ 「はい、よくみてやってください。(ちょっとフェイントをかけたりする)」

晏 「あす香ちゃん、ちょうしにのらないでください。もうやーめた」

菜 「もうやーめた。ちいとも楽しくないわ。」

あ 「そうう、まあいいか。それにねジャンケンゲームも楽しいわ」

晏 「あのアイス棒ですか」

菜 「皆さんになんのことか説明しましょう」

あ 「この前、アイスクャンディの差し入れがあったでしょう。あのとき隊長はアイス棒を集めていたわ」

晏 「あのアイス棒ですか」

菜 「そう、隊長はかなりため込んでいるみたいです。もったいないから食べたものもきれいに洗って使うのよ」

あ 「ゲームの最初に一人が2本持つんですよ」

晏 「あのアイス棒ですか」
菜 「そう、ジャンケンで勝ったらアイス棒をもらえるのよ」
あ 「わたし、いっぱい勝ったので10本もたまったのよ」
晏 「あのアイス棒ですか」
菜 「ジャンケンゲームには時間制限があるのよ。3分ぐらいかな」
あ 「笛がなって終わったら、組でちくめた貯めた数を数えるのよ」
晏 「あのアイス棒ですか」
菜 「あなた、それしか言ってないよね」
あ 「普通は3チームに分けてやるのよ。一番数が多いチームが勝ちになるのよね」
晏 「あのアイス棒ですか」
菜 「また、それしか言わない」
あ 「個人のゲットした数もすべてのゲームについて記録するのよ」
晏 「あのアイス棒ですか」
菜 「そのせりふは、楽（らく）でいいですね」
あ 「去年の舎営では、一日に3回やったわ。楽しかったわ。全部で10回の合計本数で競ったのよ。」
晏 「あのアイス棒ですか」
菜 「みんな燃えるのよね。リーダーもすごいのよ。こどもになってしまう」
あ 「すごく疲れるぐらい、必死になってやるのよね。たくさん貯まるとほんとうにうれしい」
晏 「あのアイス棒ですか」
菜 「晏奈ちゃんそれを何回言ったと思う」
あ 「あのアイス棒ですか」
晏 「それで、10回になります。ああ、楽しかったわ」
菜 「すごいね。あなたの楽しいのは、単なる楽（らく）ということだね」
あ 「どっちにしても、ジャンケンゲームはほんとに楽しいわ」
晏 「楽しい。楽しい」
菜 「めっちゃ、楽しいわ」
あ 「めでたし、めでたし」
晏 「やかまし、やかまし娘でした」
全員 「どうもありがとうございました」